

## ひょうご環境保全創造活動助成 活動報告書

団体名	NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会		
団体の所在地	兵庫県たつの市	代表者名	前田 清悟

1. 事業名	アキアカネの田んぼでの人工飼育		
2. 実施期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日		
3. 主な実施場所	たつの市揖西町中垣内地区の田んぼと実験施設(トンボ池)		
4. 活動形態	実践活動		
5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	<p>当会は、全国的にアキアカネが減少する中、田んぼで水生生物が生育出来る農薬(箱処理剤＝殺虫・殺菌剤)を検証すべく実験に取り組み、次の方法で実施した。</p> <p>1, 従来は室内でアキアカネの卵を孵化させ、ヤゴを約10日間人工飼育していたが、今回はすべて卵を放流することとした。その理由は、トロ箱ではかなり羽化していたからであり、トロ箱のようなある程度広い空間を持った飼育カゴを開発した。</p> <p>2, 田植え後の田んぼに、ヤゴの飼育カゴ 44 台を設置し、その中の容器へ卵を放流した。飼育カゴの中に鶏糞を入れることで、狙い通りミジンコがわいていた。その結果、ミジンコと鶏糞の補充は 2 週間に 1 回(去年は2日に1回)程度で済んだ。また適宜カゴの中の天敵チェックも行なった。</p> <p>3, 一般の方に、アキアカネが激減し、彼らを復活させる活動を知って頂くために、“童謡赤とんぼのふるさと巡りツアー”を企画・実施し、大変好評だった。</p>		
6. 成果・反響・反省点等	<p>1, 全体の羽化数は、天敵の侵入で前年の303匹から185匹へと大幅に減少したが、この内、我々が狙いとしている農薬(D農薬)での羽化数は39匹から68匹に増加し、田んぼでのD農薬の優位性がより明確になったと思われる。</p> <p>2, また、休耕田対策としてマコモを栽培し、そこへ水を供給していた。そして、あえて水をオーバーフローさせて下の草むらに水が溜まるようにしていたので、秋にアキアカネがそこへ産卵し、翌年に“自然羽化”が見られ、56匹確認できた。</p> <p>3, “童謡赤とんぼのふるさと巡りツアー”では、東京や大阪を含め、30人の方が参加された。当会のメインの実験施設・トンボ池やたつの赤とんぼ米の田んぼで、羽化したばかりのアキアカネを見て頂いた時は、皆さん、大変驚かれ、“感動した”というお声をたくさん聞くことができた。</p>		
7. 成果物	“童謡赤とんぼのふるさと巡りツアー”のチラシ(デザイン)		
8. 活動写真説明	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>当会の実験施設で羽化したアキアカネ(左上)  “童謡赤とんぼのふるさと巡りツアー”の模様(左下)  アキアカネの平地調査の模様(右下)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>		